

第3回船橋市教育振興基本計画（後期基本計画） 策定委員会第1専門部会 会議録

日時：令和6年5月13日（月）9時30分～11時15分

場所：船橋市職員研修所6階601研修室

出席者

【委員】

草野委員（委員長）、村木委員、村田委員、土井委員、高橋委員
（欠席：渡邊委員）

【庁内プロジェクト委員】

小野社会教育課長補佐、藤巻文化課長補佐、宮崎青少年課長補佐、松下生涯スポーツ課長補佐、中柴高根台民館長補佐、河野西図書館長補佐、石井市民文化ホール館長補佐、山本郷土資料館長補佐

【事務局】

樋口教育総務課企画係長

傍聴者：1人

【小野社会教育課長補佐】

それでは、時間になりましたので、第1専門部会を開会したいと思います。その前に、4月の人事異動により市の庁内プロジェクト委員が数名替わっておりますので、策定委員の皆様も含めて、改めて自己紹介の時間をいただきたいと思います。

皆さん、天候の悪い中、どうもありがとうございます。社会教育課の小野と申します。前回から引き続きとなりますが、よろしくお願いします。

時計回りをお願いします。

【松下生涯スポーツ課長補佐】

生涯スポーツ課の松下と申します。この4月に参りました。前任は三田公民館というところにおりました。どうぞよろしくお願いいたします。

【山本郷土資料館長補佐】

郷土資料館の山本といいます。この4月に異動で白石の後任としてやってまいりました。環境保全課というところにおりました。よろしくお願いいたします。

【中柴高根台公民館長補佐】

高根台公民館の中柴です。昨年に引き続き策定委員に入っています。またよろしくお願いいたします。

【河野西図書館長補佐】

西図書館の河野と申します。昨年度に引き続きまして、よろしくお願いいたします。

【石井市民文化ホール館長補佐】

市民文化ホールの石井と申します。昨年に引き続きよろしくお願いいたします。

【高橋委員】

市民公募で応募させていただきました高橋佑実と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

【土井委員】

同じく市民公募委員で委員になりました土井です。どうぞよろしくお願いします。

【村木委員】

青少年相談員の副会長を務めている村木といいます。よろしくお願いします。実は生涯スポーツ課のスポーツ推進委員を兼任してまして、今回は青少年相談員としてよろしくお願いいたします。

【草野委員】

社会教育委員会議の委員長をしています草野といいます。よろしくお願いいたします。

【村田委員】

船橋市で自治連のほうの副会長をしてまして、地域町会、それからいろいろなところの地域の活動をやっています村田でございます。よろしくお願いいたします。

【藤巻文化課長補佐】

文化課長補佐の藤巻と申します。この4月から広報課から異動してまいりました。よろしくお願いいたします。

【宮崎青少年課長補佐】

青少年課の宮崎と申します。よろしくお願いいたします。この4月まで青少年課で係長をやらせていただいております。村田さん、いつもお世話になっております。村木さん、いつもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございました。皆様、よろしくお願いします。

それでは、第1専門部会を開会します。

前回は、地域の実情に合わせたコミュニティ・スクールの発展、若年層の公民館の利用促進、市民への情報の伝え方について、また、市民がぱっと見て分かりにくい用語に

については、全体的に説明書きをつけたほうがよいのではないかなどのご意見をいただきました。本日も前回に引き続き、計画書原案に対するご意見やご質問をいただければと思います。

協議終了時刻は11時30分を予定していますが、専門部会ごとに解散することになっているため、協議が終了した時点で解散となります。

基本方針1と2の各施策について、前回の部会では、計画書原案のページ順で皆様からご意見、ご質問等を伺いましたが、今回はページの順番にかかわらず、気になった施策について触れていただいて構いません。

それでは、協議をはじめたいと思います。よろしくお願いします。

どの分野からでも、またどのようなご意見でも構いませんので、何かありましたらよろしくお願いします。

何か前回終わって気になったことなどでも構いません。

村田委員、お願いします。

【村田委員】

前回、割と基本的なところで、要するにのっとった感じでずっと流れていってしまして、私たち、こういうふうに思うよというところがちょっと言えていなかったような気がするんですけども、今回はそういったところを少し聞いていただいて、あと、私たちも地域活動をやっているんです。

それでこの間、原案を再度読んできてということだったので、また改めて見てみたんですけども、地域とか家庭とか、それから学校だとかいうところの連携というものについては、かなり私たちも真剣に取り組んでいる部分なんです。それで、かなり幅が広いので、私も全体的に今活動している中で、すごく大事なと思っているのは、やはり非常に地域の人材をどういうふうに見つけて、それでその人たちをどういうふうに動いていただくようにしていくかということが、すごく重要なところではないかなと思っていて、自治連なんかでも私たちはいろんな役員をやっていると思うんですけども、次の後継者という段階で、非常にそういう悩みがあるんですね。次のところにどういうふうにつなげるかということで。それで若い人たちのそういった意識を、かつての私たちがやっていたようなところに考えてくれというのは無理なのかもしれないですけども、そういった時代の違いをどういうふうにつなぐか、そしてまた今の時代にはどういうふうになっているのかということも、もう少し私たちもよく分からなくてはいけないなというところ、今すごく悩んでいるというところがすごく重要なところなので、こういったことを考えていただきたい。

それから、あともう一つは、文化の面で、これは非常に個人的かもしれないですけども、やはり船橋市、これだけ64万人ものこういった大きな市になっていて、どちらかというとスポーツとかというのは、物すごく生涯の健康だとかそういうことで、すごく

スポーツということには物すごく力が入っているんですけれども、文化ということでは、私たちも何回かこういった会に参加させていただいて言っているのが、やはり文化的な施設のあれがちょっと足りないのではないかなと。

例えば、他市のほうを見ていてという言い方は変なんですけれども、やはり他市にはそろっているような、例えばコンサートホールだとか、やれ図書館だとか、それからあともう一つ美術館だとかというような、そういったものが、割とどちらかというと船橋市はちょっと薄いかなと。皆さん、本当に頑張っていただいているし、子どもたちのことを見ると、船橋市の中で本当に子どもたちも音楽の面ではかなり力があるんですよ。ところが、コンサートなんかを開くときには、他市へ行ってコンサートの会場を借りなきゃいけない。それこそ某中学校では、子どもたちの合唱祭にわざわざ電車に乗って、それこそゲルマン民族の大移動ではないんですけれども、何百人もの子どもが電車に乗って他市へ行ってコンサートをしなければいけないとか、合唱祭をしなければいけないなんて、そういう状況がありまして、これは本当にちょっと残念だなと思うんです。

それからあと、また、子どもたちのそういった……何か大事なことを言おうと思ったんですけれども、何かそういったことにもう少し力を入れていただきたいなということもあるんですよ。

ちょっと後で思い出したら言いますので。すみません。

【小野社会教育課長補佐】

今、村田委員からご意見いただいたのですが、1点目、地域の人材、後継者とかそういった地域の人材育成について、昔の時代とちょっと違ってしています。今の後継者とかの在り方ですね。家庭とか地域の連携について、今後の在り方についてお聞きいただきました。

それで、こちらで各施策で何かそれに絡むようなものは、市のほうでもありますか。

【宮崎青少年課長補佐】

青少年課です。

今年度から地域学校協働活動を所管しています。学校のほうから地域学校協働活動推進員の推薦をさせていただいております。地域と学校のコーディネートをやっていただくような形で、おかげさまで83校、全ての学校から推薦をいただいております。

まだ具体的に、今後、その方々をどう活用していくのかというのは、事業が始まって推移を見ながら、うまく連携のほうをサポートしていくというようなことで考えています。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

【藤巻文化課長補佐】

文化課でございます。

今、委員のおっしゃられた後継者の問題については、市内でもいろいろな文化の団体がありますが、おっしゃるとおり若い方が育たないというお声をいただいています。

これについて、どう育てていくのかというところではありますが、たとえばいろいろな情報を発信したり、若い人たちが魅力のあるものに気づいていただけるような事業を展開していきたいとは考えていて、文化団体と連携しながら発信強化していければということでは考えております。

【中柴高根台公民館長補佐】

高根公民館の中柴です。

地域の連携というお話がありました。公民館でも、そこは課題として大きくなっていると思います。

地域に眠っている人材をいかに発掘して、地域課題の解決のために何か協力を得られるのか、なかなか待っているだけではできないと思っています。

私はこういうことができるのでと、公民館に提案いただく方はおりますが、多くはありません。なので、地域に眠っている人材をいかに発掘していくかが、課題になってくると思います。

その中で、地域の課題発見・解決事業があります。いかに地域の課題を解決していくのか、地域にいる人材の方と公民館で連携して課題を解決していくことを目的にしています。

少しずつでも地域の活性化や、人材を発掘するということに注力していければというふうに思っています。

以上です。

【小野社会教育課長補佐】

市民大学校では様々な学科がありまして、例えば生涯学習コーディネーター養成学科というのが一つあるのですが、そこでは年間を通して船橋の生涯学習についていろいろ学んでいただいて、その1年間の講座修了後は公民館と連携して、地域の方とつながって、いろいろ地域を盛り上げていただくというか、そういったつながりを持っていただいて、地域づくりに貢献していただくというようなことをやっています。

また、市民スマホコンシェルジュ養成講座を設けまして、スマホの操作に悩みを持つ方へ地域でアドバイスできる人材を育成するために講座を開催しております。

【河野西図書館長補佐】

西図書館、河野です。

先ほど村田委員から、図書館というキーワードをおっしゃっていましたので、ご説明いたします。

今現在、船橋市内には4つの図書館がございます。西、中央、東、北ということで4つございますが、今現在では、図書館を新たに設置するとかという計画はございません。

これまで市内には、公民館の図書室や図書コーナーというものがあまして、そこに置いてある本を図書館とは全部共通の蔵書から、要するに、例えば小室公民館の窓口で西図書館の本を借りて、それをまた今度返すときは中央図書館に返すという形、どこで借りてもどこの本も借りられるし、どこに返してもいいという図書館ネットワークという形で築いてきました。

そのうえで図書館や公民館の図書コーナーが自宅の近くになんだというご要望は確かにいただいておりますので、そのほか、移動図書館、3,000冊の本を載せて移動する図書館、自動車の図書館がございますので、これらを組み合わせながら、今後もより良いサービスにしていきたいとは考えております。

以上です。

【小野社会教育課長補佐】

ほかに何かありますか。

【村田委員】

さっき忘れていたのが、図書館の話だったんですけども、子どもが今、結構朝の授業前に何分読書をするとかやっているんですよ。私、それこそこの時代がすごくAIだとかそういったものの発展とともに、どんどん読むということが少なくなってきた、どちらかという、「見る」ではあるんですけども、「読む」が少なくなってきたかなと思っていて、活字を読むというのはすごく脳にいいんじゃないかと、ちょっと古いかも知れないですけども、すごくそう思っているんですよ。

やはり人の考える力を養うには、本をすごく読んで、何かを自分の中で解説していくような、そういった力というのはすごく重要で、これからますますそういったAIだとかが進んでいく中で、やはりこれから子どもに本当につけてもらいたい考える力というか、そういったもののことで、図書館の何というか、たくさんあちこちありますので、ないと言っているのではないんですけども、これは切望なんですけれども、昔からそういう何かあるといいなとすごく思っていたので、本当に皆さんも頑張ってくださいているのはよく分かるし、あと、小学校だとか中学校にも図書館があるんですよ。そういったものをオープンにみんなでそういうふうに動けるような、そういったものがあるといいなというふうにすごく思っているんです。何か煩雑な言い方なんですけれども、大事だなと思ひまして。

【河野西図書館長補佐】

西図書館、河野です。

今おっしゃったように、小学生、中学生の不読率、1日とか1週間に文字の本を全く読まないという日がある日ありますかと、これは国でも全国でも調査しておりますし、船橋市でも計画の見直しのときにアンケート調査を行っております。やはり年々読まないという率が上がって、要するに小学生、中学生が文字を、活字を読んでいないということが、本当に顕著に結果として表れております。

これは、船橋市でも子供の読書活動推進計画というのを策定しております、図書館と、あとは学校は学校で学校図書というものがありまして、それぞれの本自体は全く別の蔵書というふうに分かれているんですが、ただ、学校司書研修に、図書館から講師を派遣したり、あとは、本自体を、学校は学校の中で物流のシステムがありますから、そこをつなげて、図書館のほうもある程度まとめて学校のほうにお貸ししたりということもやっております。

子供の不読率については、本当に危機感を覚えておりますので、子どもたちに本に親しんで楽しんでいただきたいというふうに考えて進めていきたいと思っています。

以上です。

【小野社会教育課長補佐】

村田委員、よろしいですか。

【村田委員】

だらだらやっているとは相当長いことになりますので。

【小野社会教育課長補佐】

それでは、2点目おっしゃっていたスポーツと文化のところで、文化の部分で施設が足りない、不足しているのではないかというご意見で、コンサートホールとか図書館、美術館のお話を出されていたと思うのですが、実際のところ、所管としては状況はどのような感じでしょうか。

【藤巻文化課長補佐】

委員のおっしゃったコンサートとかというのは、やはり秋に集中するというのはどうしても否めないところで、それについては団体も、施設側としても受入れの数もありますので、調整しなければならないですけれども、ただ、どうしても箱物という観点の中で市の施策の中では、すぐにどこかにコンサートホールを造るというのは、なかなか難しいとは考えています。

あと、美術館のお話についても、今現状なかなか申し上げにくいところではあります

が、市民ギャラリーを活用して、文化課のほうでも市所蔵展など、市が持っている作品を皆さんに触れていただく機会をつくっているところではあります。

【村田委員】

何回か、前回のときもこんなこと言っていて、文化ホールすぐ造ってくれと。西武の跡地を何とかしろなんて言ったりなんかして、市長がそれは無理だなんて言われたりなんかしたんですけれども、それはよく分かるんですけれども、財政的な面とかいろいろなことを考えると、本当にそうなんですけれども、これだけたくさんの人たちがいて、本当に文化って、船橋市がまず最初に何が浮かぶかというと、そこら辺のところがすごく薄い感じがするんです。これから本当にたくさん子どもたちの中で人材もたくさん出てくるでしょうし、それからあと、老若男女関わらず、やはりそういったものというのは満遍なく効果が出ることだと思うんですね。お年寄りはお年寄りで、そういった観劇だとか歌だとかいろんなものを見ながら、そういった楽しみが増えるでしょうし、若い人たちは若い人で、そういった子どもたちを本当に育成していく力が出ると思うんですね。だから、これは本当に希望なんですよ。本当にあったらいいなというふうに思っているので何回かしつこく言っているんですけれども、すみませんが、よろしくお願いします。

【小野社会教育課長補佐】

石井補佐、お願いします。

【石井市民文化ホール館長補佐】

村田委員のおっしゃっているとおりで、施設としても他の市町村とかと比べてみると、64万人都市としては劣っていると思っております。

しかしながら、市の財政面もありますので、公共建築物の保全計画にのっとり、今の施設をいかに大切に維持して快適に使っていくかということに重きを置いて、今、改修の計画も立てているところです。

ただ、残念ながら座席数とかは、敷地が同じところにあるわけですから変わりませんが、快適に使えるようには努力してまいりたいと思っております。

新しい施設、新しいホールを建てる、事業課だけではどうにもいかんともしい状況でございますので、いろいろこういう会議とかで市民の方を巻き込んで、気運が高まれば市も動くのではないかなというような感じで見ているところでもございますけれども、ただ、今の施設も他市に比べるともう9割近い利用率で、県内でもトップクラスの利用率を誇っております。ということは、小さい規模ながらも使いやすいホールというふうに自負しておりますので、新しく大きいものができるとう利用料が高くなってしまったり、それはまた別の問題点が出てきてしまうので、そういうところも全体的に考えながら進

めていければと考えております。

【小野社会教育課長補佐】

今、様々な施設の話があったんですけれども、限られた資源の中で最大の効果を発揮できるようにという使い方になっていくかなと思いますので、その点をちょっといろいろ見ていただいて、また何かご意見等あれば、いつでも市のほうにおっしゃっていただいて。

【村田委員】

何しろ長いこと重ねて言っていくうちに、そういうふうになるのではないかという、切望です。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

土井委員、お願いします。

【土井委員】

今、村田委員のほうからいろいろなご要望だとか今までの期待しているようなことを、あるいは人材育成のようなことの話など聞かされて、今それに対して皆さんがお答えしているというような状況だったんですが、一番気になることは、この計画、この策定をする文章の中に、今、村田委員のおっしゃったようなことは、何かこれから盛り込まれてくるのかどうかということが、一番問題点かなと思います。

今、こうやって言葉でもってお答えされていることが、本当に反映されるのかというのは、例えばスポーツ推進委員というのがここにありますが、スポーツ推進委員の研修率を高めるというのがここに載っていますけれども、僕が見た感じでは、そういう人たちの人材育成に関しての言葉というのはあまりない、そういうことがここに盛り込まれてこないということが問題ではないかなと思います。

どこかではっきりとやらないと言え、皆さん方は何年かで担当がお替わりになるけれども、策定されたものという基準を今後とも考えていかれるわけだから、そうなってくると、ここで村田委員がおっしゃったようなことが忘れ去られてしまって、新しい方々でこれを見ていく。そうすると、ここでしか見られないので、反映されない。

先ほど、小野さんがおっしゃったような生涯学習コーディネーター、あれが市民大学校のほうで新しく講座をつくり直されて、そこで認定者を出したりして、それが公民館と連携を取っていく。でも、この中にはそういったようなものは何もないんですよね。

そういったようなことがここら辺の中にやっぱり盛り込まれていくのかということが、

とても心配で、それ公募委員で私、公募してきましたけれども、この文言だとかいうことに関しても、チェックだとかいうところだけで終わるのか、あるいは、それについてはぜひ盛り込んでいただきたいというような意見が反映されるのかどうか、そこが一番心配です。

多分、村田委員は、ずっと昔からここで、いろんなところでたくさんそういった意見を、昔と同じようなことを多分おっしゃっている。でも、それがどこかでいつも消えていってしまうけれども、村田委員のなかではいつもずっと記憶として残っている。でも新しく形になって残っていかない。これはすごく大きな問題だと思います。いろんなところで皆さん方が、いつも何か資料ですと打ち出されてくるのはこの資料（船橋の教育2020）なんです。ということは、船橋の教育2020というのは私、本当に四、五年ぐらい前にはじめてこの存在を知ったぐらいなんですけれども、ぜひ今私が申し上げたようなことを実現していけるような形を考えていただきたいと思います。

【小野社会教育課長補佐】

土井委員、ありがとうございます。

計画のこの専門部会につきましては、前回と今回で皆様からいただいたご意見、お考えなどをまず一旦お預かりして、内部でまた検討しますが、この計画の中に書く、書かないというのは、またちょっと別の話になりますので、そこは切り分けさせていただいた上で、また次回のときにこうなりましたというのをお示しさせていただくことになります。

ただ、皆様からいただいているご意見はすごく参考になりますので、それぞれの所管のほうにフィードバックして、今後の業務に生かしていきたいなと思っています。

村田委員、お願いします。

【村田委員】

いろいろ申し上げましたが、ただやっぱり進んでいるところもあって、今回、さっき青少年課のほうからも話があったんですけども、地域コーディネーターみたいな感じで、そういった人材を育てていこうなんていう動きも出てきているんですよ。前はそういうのがなくて、これはどうするんだみたいな話だったんですけども、部分的には出ていると。別にこちらの味方ではなくて、そういう部分もあるということで、だから、言ったほうがいいなと思いまして、皆さんとこうやって検討することは大事だなと思って言っているところもありますので。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

皆様、それぞれ気づいたことをどんどん言っていただいて、参考になります。

村木委員、お願いします。

【村木委員】

今のところ2点ありまして、64ページの青少年相談員の役割でキャンプをやったりだとか、何か数年コロナで中止していて、久しぶりに再開できて、コロナ前の状況と比べると、何かアレルギーを持っている子がすごく多いという、アレルギー対応を求められることが、例えば5年、6年前よりもアレルギーがありますとチェックしてくる子が60人中半分とか、前は100人中10人とかだったらしいんですけども、50%ぐらいの子がもうアレルギーがありますというふうにチェックしてきて、というのが気づいたところなんですけど、そういう子をサポートする我々の教育というか研修も大事だと思うんですけども、家庭内での食育に関する研修というか、そんなものが子育て支援と教育力の向上とか、推進目標2のところに何かこう反映していったらいいのかなというふうに思ったというのが1つです。

ここに書かれていないだけで、具体的にもう考えられているのかなというのはあるんですけども、この中だけだとちょっとまだなかったのも、それが1点と、あと、市民大学校のカリキュラムを見て、私も出たいと思うんですけども、日中、平日の時間帯だけしかなくて、例えば土日なら出られるんだけれどもなということで、夜間部みたいながあると出られるんだけれどもなというのがあって、そういう時間設定的な。

57ページに「学びの成果を自分以外のために活かしたいと思いますか。」というアンケートがあって、18歳から49歳ぐらいの方たちの50%、60%がそういう機会があったらという結果が出ているので、でも、日中学校へ行っているし、仕事しているし、出たいけれども出られないよなという人が、そう思っている世代が多いのかなというのと、ここをターゲットにした市民大学のカリキュラムみたいなことをやっていただくと、もうちょっとリンクして来るんじゃないかなというあたりで、今回のこの計画にどう盛り込むかとか、どうなってくるか分かりませんが、意見として気づいたところをお話ししました。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

1点目ですね、青少年のほうなんですけれども、参考にさせていただいて、2点目の市民大学校のほうなのですが、確かにおっしゃるとおり、主に平日講座でやっております。

それで、おっしゃるとおり、働いている方って日中いらっしゃることは難しいと思いますので、昨年度、通常のカリキュラム以外に特別講座を実施しましたが、時間帯を夜にさせていただきました。

そういったところも意識しながら、進めさせていただきたいと思います。

【土井委員】

土日開催って以外と少ないんですよね。

【村木委員】

そうですね。

【中柴高根台公民館長補佐】

高根台公民館の中柴です。

先ほどのお話に補足します。

36ページの中ほどのところに、地域の拠点「公民館」の充実というものがあります。今、村木委員がおっしゃっているように、若い世代が日中、仕事や学校に行かれていて、公民館を利用できないという方は、平日の夜間、土日の夜間が利用できるという方が多いです。今回、新たに「地域の拠点「公民館」の充実」を施策を載せていただいたのは、そういった意図があって、載せるようになっています。

公民館の利用については、夜間の時間帯というのはどうしても利用が少なくなります。そこを埋める部分で日中働いている方、学校に行っている方の利用をサポートしていこうということが今回の意図となっています。そこを補足させていただきます。

【小野社会教育課長補佐】

ほかにご意見等ありましたら。こういったことでも結構ですので、よろしくお願いします。

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】

前回のときに、子育て支援と家庭の教育力の向上というところで、66ページのところに子育て支援事業で保育園が入っていないのはなぜですかと質問をさせていただきまして、教育委員会として子育て支援をすると、公民館でやっている事業をあくまでも載せているというふうに聞かせていただきました。

先ほど、村木さんから、アレルギーのお話とかもあったと思うんですけども、やはり保育園であればそういった栄養士もおりますし、子育て支援もやっているというところもありますので、公民館として保育園との連携というのをここに入れてもいいのかなというのは思いました。

52ページの図書活動の推進というところには、保育園との連携みたいなのが書かれておりますので、保育園と連携をしてはいけないというところはないとは感じましたので、ぜひ公民館としても連携をして、そういったところを強化していけるといいのかなと思いました。

以上です。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

【中柴高根台公民館長補佐】

高根台公民館、中柴です。

ありがとうございます。

公民館でやっているのが家庭教育セミナーであつたり就学時健診等における子育て学習、家庭教育の情報提供という事業があります。その中で、先ほどのアレルギーのお話がございましたけれども、関係部署と連携して、講師として招いて公民館を使って保健師とか栄養士、また歯科衛生士など専門家を呼んで、今後も多くの事業を実施する予定です。

保育園との連携となりますと、ちょっと離れてしまうかもしれませんが、保育の専門の先生に来ていただいて講義を行っています。高橋委員がおっしゃっている内容の事業というのは、一応公民館でも実施しております。

【高橋委員】

ありがとうございます。

すみません、もう一点お願いします。

【小野社会教育課長補佐】

高橋委員、お願いします。

【高橋委員】

63ページに、ハッピーサタデー事業というものがあるんですけども、はじめて聞きて、そもそも少年の日ということも全然知らなかったもので、具体的にどういったことをやられているのかなということを教えていただけたらと思います。

【宮崎青少年課長補佐】

青少年課の宮崎です。

このハッピーサタデー事業につきましては、青少年課のほうで所管しておりまして予算の管理をしています。事業実施につきましては、26の公民館それぞれで企画しており、様々な地域の方ですとか青少年団体さんですとか、そういった方々にお願いをして、地域の子どもたちの居場所づくりの一環として、事業を実施していただいております。

【小野社会教育課長補佐】

村田委員、お願いします。

【村田委員】

かつて私も船橋から教育指導派遣でドイツへ行ったことがあるんですよ。そのときに、あちらのところでユースという、屠殺場をすごい消毒して、そこで子どもたちが物すごい運営したりいろいろな事業をさせてくれる、子どもたちのための場所をつくってくれて、日本にはそういうのはあまりないなと思ひまして、それが何十年前の話なんですけれども、その話をしたときに、たまたま青少年課と話をひいて、結局そういった場所があつたらいいねというので、そしたら、場所はなけれども公民館がいいんじゃないかと、そこら辺からの出発なんです。

それで、やっぱり公民館が、さっきもあれだったんですけども、本当にそういった面で拠点となるところがすごくあつて、これは今まで割とつなががうまくいっていないというか、全部単発で何か動いていて、例えば今のハッピーサタデーの話でも、青少年相談員なんかも一生懸命動いているんですけども、何かそこら辺のところあまりうまくつながっていないと思うんですね。

だから、やはりそこら辺の発信というのはすごく上手に、これから皆さんに知らせていくということは大事なことだと思ひまして、これは基本計画の中でちょっとそういった点が、この間も思つたんですけども、ある一定のところだけが基本ではなくて、本当に満遍なく皆さんに伝えるということ、これが基本の第一番だと思うんですね。伝わらなければ基本にも何もならないので、こんなに一生懸命みんな考えているし、それぞれの意思で本当に悩んだり、それこそ活動したりしているんですけども、何でかなみたいなクエスチョンマークが飛んじやつたりするというのは、やはりこれは発信の仕方とか、それから連携の取り方があまりよくないなという部分もあるのではないかなと。これからますますそういった面で工夫していかなくてはいけないのではないかなというふうに思ひました。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

村田委員がおっしゃるとおり、情報発信ってそれぞれの事業担当者が悩むところで、どうやったら広まっていくなと、全て担当者は課題として考えてやっています。いろいろなところから、どうやったら効果的ななど、考えながらやっているんですが、こうやったほうがいいんじゃないかという情報があれば、ぜひ教えていただきたいと思ひます。皆様、よろしくおひいます。

先ほどのご質問のように、事業とかで、これは一体何なのという質問でも構いません。せつかくこういった場へお越しいただひいますので、ご意見いただきたいと思ひます。

【宮崎青少年課長補佐】

ハッピーサタデー事業の補足ではあるんですけども、今、こちらの原案のほうで目標と現状をぱっと見たときに、結構乖離があるなというふうにお感じの方もいらっしゃるかなと思うんですけども、やはりコロナ禍の影響が非常に大きくて、まず不特定多数の方が参加するようなイベントが、やはり公民館のほうではできなかった、そういったような影響で、一応目標値につきましては、コロナ禍前の数字をちょっときれいに整えた7万5,000という数字を持っています。

令和5年度につきましては、まだ集計中ではあるんですけども、4万人を超えるような参加のほうが見られているので、本当に公民館さんの方々には、一生懸命工夫をして参加者を増やそうというような形で動いていただいておりますので、周知のほうにつきましては、もっと所管課としても何か工夫をして、より皆さんに認知していただけるような事業にしていければなと思っています。

【小野社会教育課長補佐】

草野委員、お願いします。

【草野委員】

36ページに公民館のことがありまして、地域の拠点「公民館」の充実というところで、市民の意識としても公民館は非常に身近で、学習の拠点でもあるし、いろんな人とつながれる、そういう場でもあるし、それから災害とかそういったことが起きた場合には、防災というか、そういった拠点にもなり得る、そういう施設だと思うんです。公民館の持っている可能性というか公民館の持っているポテンシャル、それは非常に大きなものがあると思います。文化、福祉、防災、いろんな機能を持っている、多彩な機能を持っている施設だと思うんですね。

そういう公民館の可能性というものをもっと広げていく、そういういろんな取組が今後必要になってくると思うんですけども、例えば福祉という問題に関して、ウェルビーイングということが最近盛んに言われていますけれども、そういった安心して生活できる、福祉のいろんなサポートがあるという、そういう安心して誰もが幸せに暮らしていけるような、そういうウェルビーイングの社会をつくるということが一つの大きな目標にもなっているわけですけども、そういうウェルビーイング社会をつくる拠点として、公民館というものはやはりあると思うんです。

だから、もう少し福祉の問題、今後高齢化も進んでくるし、それから地域にもいろんな不安を抱えている人がたくさんいらっしゃると思うし、あと貧困の問題なんかも非常に今、深刻な状態にあるわけですし、孤立の問題とか、だからそういう福祉的な視点から公民館の在り方を見直すというか、いろんな福祉に関連する事業があってもいいし、あるいはそれから発展して政治について発言したり、政治について議論できるような、

そういう場があってもいいと思うんです。

だから、文化も大事だとももちろん思うんですが、福祉とか政治とか孤立の問題とか、そういうことが議論できたり自由に発言できるような、そういう空間として公民館を位置づけていくというか、それが非常に大事なことなんじゃないかというふうに思います。

何かそういう福祉事業というか、福祉と連携しての公民館の活動というのは、今、あるんでしょうか。

【中柴高根台公民館長補佐】

高根台公民館の中柴です。

ありがとうございました。

草野委員のおっしゃっていることは、全くそのとおりだと思います。地域の課題は、今おっしゃられた貧困や高齢化、孤立であったり、福祉に関するところは、今どこのコミュニティでも大きい問題です。

公民館の位置づけは、その課題に対して事業を行う情報を発信するとか、もうそれだけではないのではないかと思います。防災の拠点であったり、福祉全般についてカバーできるのが、もしかしたら公民館の最終的な位置づけなのかなと思いました。

福祉の話になりますと、福祉の部局と連携して、我々公民館のほうも地域に対して情報発信、セミナーやであったり講座がありますが、それはどうしても発信するだけになってしまいまして、じゃ、地域と一緒に連携をして何かをやるというところまでは、今、至っていないところでございます。

やはり草野委員がおっしゃっているように、そういったところを今後突き詰めていかなければならないとそういうふうに私も感じます。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

【草野委員】

それから、今のお話を聞いて大分分かりましたけれども、私なんかは最近思うのは、一人一人が自由に自分の意見を発言できたり発信できたり、SNSなんかでは結構いろんな意見が飛び交っているわけですがけれども、何かそういう公共空間としての公民館というか、自由に一人一人が意見を発信しながら、対立したりいろんな違った意見も出るわけですがけれども、それをぶつけ合いながら一つの自分の主観というか、偏ったそういう考え方も、少しいろんな人の意見を聞いたり議論する中で修正していったり、あるいは地域の政治とか社会の問題について考えたり議論したりという、そういう何か対面で議論ができるような、そういう公共的な問題について考えたり議論したりできるような空間として、公民館がもっと機能していいんじゃないかというふうにも思うんですけれ

ども、今、非常にSNSが発展して、ネット空間でそういう議論が出たりしてはいるんですけども、かなり歪んだそういう問題も今、出てきています。

確かにネットも大事ですし、そういう空間というのは、議論は大事なんですけれども、公共的なそういう視点から見た場合に、それが非常に歪んだ形になってきていますので、だから、もう少し対面で議論できるようなそういう場づくりというか、そういう空間として公民館というものが今後もっともっと機能していければいいんじゃないかというふうに思います。

【小野社会教育課長補佐】

村田委員。

【村田委員】

すごく今の委員長のお話を聞いて、公民館はすごく重要だと思うんですけども、先回、私、公民館だけで賄えるのかなと思ひまして。なぜかという、すごくたくさん、もう本当に公民館の館長なんか、私たちもやっぱりお知り合いがいたりして、もうすごくたくさん入ってくるんですよ。でも、大体限っているところ、例えば高齢者のほうの何とかですとか、子どもたちのとかと、やっぱりどうしてもそれで物すごい何か時間が切迫していて、入る隙間がないくらい満杯なんですよ。本当にこれ公民館だけで、だからコミュニティーの二十何個のあれでどうにかなるのかなと思ひまして、前回ちょっと聞いたんですけども、どうにかならないですかね、本当に。

さっきのそれこそ相談員の村木さんが言っていたように、ああいった昼間だけの、市民大学なんかでもそうなんですけれども、夜使ってやればいいのかというさっきのお話があったんですけども、ああいうことのあれとしては、空間が物すごく狭いので、物すごく利用できたらいいなということがたくさんありますので、これからの段階としては、検討課題としてそういった公民館の展開の仕方とか、それから、あともう一つは、いろんなそういった人とかこういうしゃべれる会議みたいなのを月に1回ぐらい持ってくださいとか、そういった話が前向きにトークできる場所づくりというのも、すごく重要じゃないかなと。いろんな意思の疎通が、違う場所で違う人たちの意見を生で聞くというのは、すごく重要じゃないかなと思ひまして。

さっきの子どもの読書の件でもそうだったんですけども、考える力とか、そういう部分では、それこそネットだとかああいうところでの発信なんかではなくて、顔を見て目を見てしゃべって聞いてというのは、これからは物すごく力になると思うので、公民館の使用の展開の仕方というのを検討していただきたいとすごく思います。

【中柴高根台公民館長補佐】

高根台公民館、中柴です。

今いただいた意見、大変ヒントになりました。公民館はただ場所を貸すだけではなくて、地域の課題でも福祉のこと、子育てのことでもいいと思いますが、1つのテーマに対して皆さんに集まっていただいて討論する、そういった企画は大変ヒントになりました。公民館でそういった使い方というのは重要と思いましたので、そこも考えたいと思います。ありがとうございます。

【小野社会教育課長補佐】

草野委員がおっしゃっていたSNSとかによる情報発信が増えて、発展していく中で、対面できる場の重要性をおっしゃっていたんですけども、コロナのときには施設を閉じたりしてしまって、やはりこちらも生涯学習に関する情報発信をしたいということで、生涯学習チャンネルというものを始めました。それがいろいろ積み重なってはきたんですが、コロナが5類に移行されて通常どおりの生活が戻ってきたときに、じゃあ、そのままSNSとかそういったネット環境で情報発信したものを、これからもただ、そのまま続けて行くのかというときには、対面が大事というものもあって、共存がうまくできないかなという考え方も持ちながら、事業を考えたりしているところです。

委員がおっしゃるとおり、両方バランスよく、いいところを取りながら行けたらなというふうに考えています。

皆様からいろいろご意見を伺ったのですが、まだあればどんどんおっしゃっていただきたいと思います。

それでは、所管からも何かありましたら、よろしくお願いします。

何か補足で説明しておきたいこととかないですか。

事務局、お願いします。

【事務局】

63ページの放課後子供教室の年間ボランティアの延べ活動回数で、現状が令和4年度182回で、目標が令和11年度2,888回と、現状に対しての目標値に大分乖離があって、ちょっとどうなのかなという疑問を持たれるかなと思います。こちらの令和4年度というのは、やはりコロナの影響を多分に受けた数字となっております。ちなみに、コロナ禍以前の過去の最高の回数というのが、平成29年で3,600回ぐらい行われております。それを踏まえると、2,888回というのも今後回復していくという計算をした上で、このくらいの数字になると考えています。

現状、令和4年度の数字を載せていますが、令和5年度の数字を確認しましたら1,047回ほどでしたので、令和11年度までには、この目標というのは達成できるのではないかと考えています。

以上です。

【小野社会教育課長補佐】

土井委員、お願いします。

【土井委員】

この基本計画案が完成のときには、後ろに索引か何かを作るということは可能なんですか。

【小野社会教育課長補佐】

索引。用語の索引ということでしょうか。

【土井委員】

そうです、用語の。いろんなところにいっぱい出ているけれども、これについてはどこだっけと思ってページを見るときに、それがもしつけられるのであれば、多分ワードのところで検索で全部やれば、どこに何があるかってそんなに難しいことではないので、もし可能なら。

【小野社会教育課長補佐】

分かりづらい用語とかの解説ですよ。

【土井委員】

そうです、解説も含めて。

あと、何でもいいということだったのであれですけども、公民館、船橋はすごくいい働きをしている施設なんですね。ここで扱っているのが公民館と割と近いような施設が船橋に幾つかあるじゃないですか。武道センターだとか。武道センターはどこの管轄なんですか。

【小野社会教育課長補佐】

生涯スポーツ課です。

【土井委員】

生涯スポーツ課ですか。

勤労市民センターは。

【小野社会教育課長補佐】

商工振興課の管轄になります。

【土井委員】

実際に公民館と同じような人たちで使われているような方たちが、あそこでいっぱい使っているんですよ。ところが、あそこは課が全く違う。こういう場には全然出てこないで、何かもったいないなという。あそこなんかはちゃんとした舞台まであって、すごく使いやすいんじゃないかと思うんですけども、使用料がちょっと高いですけども。そういったようなことが、ちょっとこころ辺でなぜ出てこないのかな、市民と直結しているところなのになど。管轄が違うけれども、市民にとっては管轄の違いなんか関係ないのになどということは思うんですけども。

【小野社会教育課長補佐】

村木委員、お願いします。

【村木委員】

38ページに生涯スポーツの推進という項目があって、3段落目の2行目の辺りに健康の維持増進や介護予防のための運動、自然と親しむ野外活動という表現があるんですけども、3段落目、「第二次船橋市生涯スポーツ推進計画では」のところですよ。

ちょっと本業がリハビリ系のことをやっていて、そういう理学療法士協会とかと連携してこういうことに取り組むみたいな計画なんかは構想に入っているのかどうかというのを聞いてみたかったんですけども。介護予防のこととか健康増進というところの専門領域というところの団体と連携を図る、そんな計画は、話があったりするんでしょうか。

【松下生涯スポーツ課長補佐】

生涯スポーツ課のほうでは、スポーツ推進委員さんですとか、スポーツ協会ですとか、そういった方のご協力をいただく中で、様々なレクリエーションですとかいろいろなイベントですね、そういったものを開催しているところがございますけれども、いろいろなレクリエーションですとかイベントですとか、そういったところを工夫しながら、市民の皆様に健康でいていただけるスポーツの推進をしています。

今後そういったイベントができるような形で、各団体さんと連携していければとは考えております。

【小野社会教育課長補佐】

村田委員。

【村田委員】

何か今、村木さんが言っている話とちょっと似ているのかなと思うのは、公園を使っ

て健康体操なんかやっているじゃないですか、朝。健康体操でしたっけ。朝の公園でやっているでしょう。それなりにやっている中で、そこにスポーツジムなんかが、それは要するに地域のところに一緒にやるのでやっていきますよなんていって、この間も天沼公園なんかはティップネスなんかがインストラクターが曜日を決めて出てきて、一緒に体操やっているんですよ。健やか健康何とか。いいかげんなことを言って申し訳ないんですけども。そういうのをやっているんですよ。

だから、もしあれでしたら、村木さんなんかのほうのそういったところとの地域だとかそういうところからのジョイントというのはできるんじゃないかなと思うんですよ。結構それで専門的にいろんなこういうアドバイスがあったりとかというので、この間もたくさん出てきていて、ただ普通のラジオ体操をこうやってやっているだけじゃなくて、こういうふうにストレッチするとこうですよなんて言いながらというのがちょこっと入ってきているんですよ。

だから、そういうのが、今、市全体ではないけれども、そういう健やか健康ということで、そういうのなんかを取り入れてやっているというのがありますので、やっぱりまず発信していくというのが重要なのかなと思っていて、組織としてつながっていくということじゃなくて、そういった自分たちのノウハウを提供していくというようなことがあればいいんでしょうね。そうすると健康をつくるという話にプラスになっていきますし。

【松下生涯スポーツ課長補佐】

夏見の運動公園ですとか、あと、この間アリーナとかでもこどもの日にフェスタとか開催いたしまして、いろいろな、バドミントンですとか、そういったところにプロの選手がいらしたりとかして、市民の方と一緒にプレイをしたりとか、そういったイベントも開催していることもございますので、そういった団体や民間の力も借りながら、健康の推進をしていければとは考えています。

【村田委員】

やっぱり発信するということが大事かもしれないですね。

【村木委員】

今おっしゃって、既にやっている事業というのは、この38ページの事務事業名とか事業概要というところに含まれているという捉え方でいいんでしょうか。こどもの日にそういうイベントをやっていますとか、そういうことが含まれているという。

分かりました。

上に介護予防という言葉が書いてあったので、介護予防って60歳以上とか、そういった方がターゲットかなと思ったので、58歳以上の割合と書いてあったので、18歳

以上に60歳も含ますけれども。

【松下生涯スポーツ課長補佐】

そうですね。含めてという。

【村木委員】

含めてですね。

そういうときに、そういう団体というか、専門職の領域なんかにも声をかけていただいたりしてもいいのかなと思ったという。すみません。

【小野社会教育課長補佐】

ありがとうございます。

草野委員、お願いします。

【草野委員】

今、グローバル化ということが随分進んできて、コロナでちょっと一旦グローバル化の動きがややストップしたところがありますけれども、そのグローバル化、そういう中で、外国の方がやっぱり日本に来て、観光で来る場合もあるんですけども、在住の長く定住していращやる外国の方も結構増えていますよね。そういう地域で暮らす外国の方の学習権というか、学習、あるいは文化、スポーツのそういう権利保障の問題というか、それはどうなんでしょうか。

かなり地域の国際化が進んでいる埼玉県の川口市とか、あるいは東京の新宿、池袋辺りとか、船橋はそこはちょっと状況が違うと思うんですけども、やっぱり今かなり外国の方が在住していращやる、そういう状況が出てきているんじゃないかというふうに想像はするんですけども、そういった場合に、地域で暮らす日本語がまだ十分自由ではないような方の学習に対するそういう場の保障というか、そういったことについては、この目標の中であまり扱われていないような気がしたんですが、その辺はいかがでしょうか。

【小野社会教育課長補佐】

公民館などでも、外国籍の方を対象とした事業なんかも聞くことがあるので、そういったことも公民館の実施事業においても考慮されているのかなと思いました。

【中柴高根台公民館長補佐】

補足させていただきますと、今、外国人の方たちが多く住んでおり、地域では、ごみの捨て方の問題など日本のルールも分からない外国人の方をどうしていけばいいかが地

域の課題として出てます。

やっている事業という話ですけども、外国人も多様化していますので、まず文化を知ることがすごく大事なことで、やはり双方に理解しなければ成り立たない社会ですので、外国の講師としてそこに住んでいる外国人の方をお呼びして、自分の国の文化はこうなんだということを発信して、そういった事業を公民館が双方の立場でやるということを行っています。

以上です。

【小野社会教育課長補佐】

何かほかの事業でも、外国籍の方とかを意識したような事業の進め方でやっているものはありますか。

【土井委員】

外国から来られた方で、今、実際ここに住んでおられる方たちというのは、自治会組織に入っておられるんですか。

【小野社会教育課長補佐】

村田委員。

【村田委員】

あまり自治会のほうに率先してはいらっしゃらないですね。たまたま隣で知り合いになったからという感じで入る方は。やっぱりあんまり積極的ではないと、こちらのほうも声のかけ方も悪いんでしょうけれども。

なかなか難しいところです。

本当は、それこそ草野先生がおっしゃるように、フレンドリーに交流ができて、となってくるのが理想ですよね。だから基本これでやっていて思うんですけども、さっきもそうなんですけれども、組織がそれぞれで一生懸命頑張っているんだけど、みんな単独で、立体的にもならないし横にもつながっていないみたいな、せっかくみんな頑張っているのにみたいな、こんな寂しい感じで、これをもっとうまくつなげていける方法があれば、本当にこういった一生懸命やっただけでいることが実を結ぶんですけどもね、何かちょっと歯がゆいですよね。

【土井委員】

さっき村木委員のほうからも、自然と親しむ野外活動とここにありますが。これってどんなことを実際にはやってこられたんでしょうか。それとも、今回新しく出たわけじゃないですよね。今まであった。38ページに書いてある。実際にどんな活動をここでや

っているのでしょうか。

【宮崎青少年課長補佐】

青少年課の宮崎です。

青少年課のほうで大神保の青少年キャンプ場の所管をさせていただいています。本当に森林の中に、余計なものと言ったら変なんですけれども、人工の遊具とかはあまりなくて、本当に森の中にスペース、トイレと水場の最低限の設備を備えた施設なんですけれども、お子さんのいるご家族や、青少年団体、例えばボーイスカウトさんですとか、あと青少年相談員さん等に利用していただいているほか、そういった方々にお願いをして、青少年課の主催事業をしています。そういった団体の方々に活用していただいて、それぞれの子どもたちのほうにこういった体験活動を経験していただくといったようなことはやっております。

【村田委員】

それで、かつては少年の船なんていって私たちがくっついていってやったり、それからあと北海道に行ったりとか、そういうような活動をしながら子どもたちの育成をするというので、結構そういうのは、今はないんですけれども、やっていますよね、キャンプとかって。そういうのが知られていないんですよね。

【小野社会教育課長補佐】

何かございますでしょうか。

所管のほうからの補足等はないでしょうか。

【宮崎青少年課長補佐】

青少年課です。

土井先生のほうからの自然と親しむ野外活動の補足なんですけれども、一宮少年自然の家なんですけど指定管理施設となっていて青少年課のほうで所管をしています。

近隣に里山がありまして、学校さんのほうから校外学習ということで、一宮のほうに宿泊をして、そういったハイキングですとか、自然に親しむプログラムをやって、子どもたちにそういった体験のほうをしていただいています。

あと、具体的に何をやっているのかというところなんですけれども、青少年キャンプ場のほうも、ちょっと今、泊まりでのプログラムというのは、やっぱりコロナ禍のときに一旦取りやめになって、その後、活動の実績としてはないんですけれども、火起こしですとか、あとは森林内のドングリとかそういったものを拾って、何か工作等をしていただくというような形で実施させていただいています。

【土井委員】

ありがとうございます。

ただ、私が今までああいう場所でキャンプやったりだとか、何かの教育が行われているとかいうのを、実態をこう見てきまして、自然とは親しんでいない。実態は。飯ごう炊さんでない、野外炊飯をして、キャンプファイヤーをやって、何かをやってということだけれども、せっかくそこに行っているのに、すばらしい自然があるのに、なぜ子どもたちに見せる機会をしないのか、そういうプログラムをどうして開発していかないんだろうかといつも思うんですよね。そこでキャンプやったからといって、自然になんか全然親しんでいませんから、実態は。これは野外教育の専門家として断言します。残念ながら。そういう意味ですごく関心があるところなんです。

【小野社会教育課長補佐】

あと、先ほど草野委員がおっしゃっていた外国人の方への生涯学習の学ぶ機会とかそういうことについてなのですが、一番星プランの中でも、施策の細かい取組としまして、外国人住民等に向けた生涯学習情報の発信とか、あとは多文化共生のための学習の推進などを掲げながら、具体的にどういったことをやっていこうかなどを考えながら、今進めているところです。

以上です。

ご意見等はございませんでしょうか。

皆さん、どうもありがとうございました。

前回と本日でいただきましたご意見につきましては、庁内プロジェクト委員会で検討しまして、次回、皆様に市の考え方を示し、さらに協議をさせていただきたいと考えております。

それでは、事務局から事務連絡をお願いします。

【事務局】

事務局でございます。

本日も長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。

連絡事項2点ほどございます。

まず、次回、第4回の策定委員会ですが、7月の上旬から下旬までの間に開催を予定しております。皆様には日程調整表を本日お配りさせていただいておりますので、5月20日の月曜日までに郵送もしくはファクスにて教育総務課まで送付いただきますようお願いいたします。

2点目でございますが、本日の会議の会議録につきまして、原稿が出来次第、またご連絡をさせていただきますので、内容のご確認についてご協力をお願いいたします。

連絡事項は以上でございます。

最後、お車でお越しの方いらっしゃいましたら、受付でまだ駐車印を押されていない方もいらっしゃいましたら、ご用意しておりますので、お声かけをお願いいたします。

以上でございます。

【小野社会教育課長補佐】

委員の皆様から何かございますか。

以上をもちまして、第1専門部会を閉会いたします。

長時間にわたりお疲れさまでした。ありがとうございます。